

平成27年度岡山県農林水産総合センター農業研究所試験研究課題評価票

<事前評価>

総合評価凡例 5：優先的に実施することが適当 4：実施することが適当
 3：計画等を改善して実施することが適当 2：実施の必要性が低い
 1：計画等を見直して再評価を受けることが必要

| | | | | | | | |
|----------|---|----|----|----|----|----|-----|
| 課題名 | ブランド米「アケボノ」の安定多収生産技術の確立 | | | | | | |
| 課題の概要 | 業務用米として高いニーズのある「アケボノ」の競争力を強化するため、「アケボノ」が多収となる生育指標を明らかにし、安定多収技術を確立する。 | | | | | | |
| 評価結果 | 区分 | 5点 | 4点 | 3点 | 2点 | 1点 | 平均点 |
| | 必要性 | 2人 | 2人 | 2人 | 0人 | 0人 | 3.9 |
| | 有効性 | 0人 | 3人 | 3人 | 0人 | 0人 | 3.4 |
| | 効率性・妥当性 | 0人 | 3人 | 3人 | 0人 | 0人 | 3.4 |
| | 総合評価 | 1人 | 4人 | 1人 | 0人 | 0人 | 4.0 |
| 助言・指摘事項等 | 1. 県南地域の生産現場では安定多収生産技術の確立と早期の実用化が急がれており、重要な課題である。 2. 生産者向けの生育指標の作成は評価に値する。幼穂形成期のみでなく、他の時期における生育指標も調査対象にいた方が良い。 3. 米の収量・品質について、管理技術だけでなく温度との関係も検討する必要がある。 4. 業務用米の評価基準を明らかにして研究を進めて欲しい。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|----------|---|----|----|----|----|----|-----|
| 課題名 | 主食用米の飼料用栽培に特化した低コスト多収施肥技術の確立 | | | | | | |
| 課題の概要 | 飼料用米の生産拡大を図るため、飼料用米栽培に特化した低コストで多収が可能な施肥技術を確立する。 | | | | | | |
| 評価結果 | 区分 | 5点 | 4点 | 3点 | 2点 | 1点 | 平均点 |
| | 必要性 | 2人 | 3人 | 1人 | 0人 | 0人 | 4.1 |
| | 有効性 | 1人 | 3人 | 2人 | 0人 | 0人 | 3.9 |
| | 効率性・妥当性 | 0人 | 3人 | 3人 | 0人 | 0人 | 3.6 |
| | 総合評価 | 1人 | 5人 | 0人 | 0人 | 0人 | 4.2 |
| 助言・指摘事項等 | 1. 施策上重要な飼料用米生産のための低コスト多収施肥技術の確立は重要である。 2. 「中生新千本」「アケボノ」の多収施肥技術の確立が生産現場で求められている。 3. 過去の試験結果等をしっかり解析し、できるだけ試験設計を絞り込んで実施して頂きたい。 4. 県民全体としても国産の飼料での飼育を実現することは、安心・安全の大前提となる。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------|---|----|----|----|----|----|-----|
| 課題名 | 大規模水田作経営に対応した効率的な麦作体系の確立 | | | | | | |
| 課題の概要 | 大規模水田作経営を振興するために、経営条件に適した技術、運営による効率的な麦作モデルを策定する。 | | | | | | |
| 評価結果 | 区分 | 5点 | 4点 | 3点 | 2点 | 1点 | 平均点 |
| | 必要性 | 2人 | 2人 | 2人 | 0人 | 0人 | 3.9 |
| | 有効性 | 0人 | 1人 | 4人 | 1人 | 0人 | 3.1 |
| | 効率性・妥当性 | 0人 | 2人 | 3人 | 1人 | 0人 | 3.2 |
| | 総合評価 | 1人 | 3人 | 1人 | 1人 | 0人 | 3.7 |
| 助言・指摘事項等 | <p>1. 平野部の多い岡山県南部で目指すべき農業の経営形態の一つとして、大規模化と麦作を組み合わせた経営モデルの確立は急務である。他県での先行的な取り組みを参考にしながら、スピード感を持って効率的に取り組んで頂きたい。</p> <p>2. 排水対策や播種方法について優先的に検討することが重要である。</p> <p>3. 本研究の出口を明確にし、大規模水田作での麦作経営管理手法のために必要な技術ニーズを把握し、技術分野にしっかり反映させて頂きたい。</p> <p>4. 小規模な取り組みについても研究すると、広く県全体に及ぼす効果がある。</p> | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------|---|----|----|----|----|----|-----|
| 課題名 | 加温栽培「シャインマスカット」の高糖度・高品質安定生産技術の確立 | | | | | | |
| 課題の概要 | 加温栽培における結実不良や糖度不足などの原因を明らかにし、高糖度で高品質な果実の安定生産技術を確立する。 | | | | | | |
| 評価結果 | 区分 | 5点 | 4点 | 3点 | 2点 | 1点 | 平均点 |
| | 必要性 | 4人 | 2人 | 0人 | 0人 | 0人 | 4.7 |
| | 有効性 | 3人 | 3人 | 0人 | 0人 | 0人 | 4.4 |
| | 効率性・妥当性 | 3人 | 3人 | 0人 | 0人 | 0人 | 4.5 |
| | 総合評価 | 4人 | 2人 | 0人 | 0人 | 0人 | 4.7 |
| 助言・指摘事項等 | <p>1. 岡山県のブランド強化につながる研究課題であり、産地間競争が激化していることから、加温栽培の高糖度、高品質安定生産技術の確立が急がれる。</p> <p>2. これまでの簡易被覆栽培や無加温ハウス栽培で得られた結果をベースに、加温栽培においても糖度をあげられる技術開発を期待する。</p> <p>3. 加温の作型における果実の糖度不足が梅雨期の低日照によるのであれば、この時期のCO₂施用についても検討してみてもどうか。</p> <p>4. ギフト商材として更に上のクラスを目指すことを期待している。</p> | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------|---|----|----|----|----|----|-----|
| 課題名 | 準高冷地での「オーロラブラック、シャインマスカット」生産技術の開発 | | | | | | |
| 課題の概要 | 準高冷地における成木での果実の成熟特性を明らかにし、成熟特性に適した簡易被覆栽培(トンネル)での高品質生産技術を開発する。 | | | | | | |
| 評価結果 | 区分 | 5点 | 4点 | 3点 | 2点 | 1点 | 平均点 |
| | 必要性 | 1人 | 4人 | 0人 | 1人 | 0人 | 3.8 |
| | 有効性 | 1人 | 4人 | 0人 | 1人 | 0人 | 3.8 |
| | 効率性・妥当性 | 1人 | 3人 | 1人 | 1人 | 0人 | 3.7 |
| | 総合評価 | 1人 | 4人 | 0人 | 1人 | 0人 | 3.8 |
| 助言・指摘事項等 | <p>1. 本研究は、準高冷地における当該ブドウ品種の安定生産並びに県南産地とのリー出荷による岡山県のブランド化のために必要な研究課題である。着実な研究進行により、当初目的の成果を上げられることを期待する。</p> <p>2. 成熟日数が十分でない準高冷地でのブドウ生産技術の開発は、新たな産地を形成するうえで有意義である。</p> <p>3. 単にぶどうが生産できるだけでなく、酸度がスムーズに減少する技術開発が必要である。</p> | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------|---|----|----|----|----|----|-----|
| 課題名 | 地下部環境の改善によるナスの日焼け果防止技術の確立 | | | | | | |
| 課題の概要 | 施設栽培及び露地栽培において、販売不能果の多発や等級の低下を回避するため、生産者が低コストで簡便に実施できる日焼け果防止技術を確立する。 | | | | | | |
| 評価結果 | 区分 | 5点 | 4点 | 3点 | 2点 | 1点 | 平均点 |
| | 必要性 | 2人 | 4人 | 0人 | 0人 | 0人 | 4.3 |
| | 有効性 | 1人 | 4人 | 1人 | 0人 | 0人 | 4.0 |
| | 効率性・妥当性 | 2人 | 4人 | 0人 | 0人 | 0人 | 4.4 |
| | 総合評価 | 3人 | 3人 | 0人 | 0人 | 0人 | 4.5 |
| 助言・指摘事項等 | <p>1. 岡山県の野菜産業におけるナス栽培の重要性からみて、高品質なナスの安定生産のため、優先的に実施すべき課題である。有効な「日焼け果」発生防止技術の開発を期待したい。</p> <p>2. 農家の所得向上に大きく寄与すると思われる。</p> <p>3. 施設栽培だけでなく、露地栽培にも適用できる技術を開発することで、近年伸びている夏秋物の栽培に与える影響は大きい。</p> | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------|---|----|----|----|----|----|-----|
| 課題名 | ブランド力向上を目指したキャベツの良食味安定生産のための施肥法の確立 | | | | | | |
| 課題の概要 | 県産キャベツの販売力を強化するため県南部の秋冬期キャベツ栽培を対象に、気象条件に左右されにくい良食味で安定生産可能な施肥方法を確立する。 | | | | | | |
| 評価結果 | 区分 | 5点 | 4点 | 3点 | 2点 | 1点 | 平均点 |
| | 必要性 | 0人 | 3人 | 3人 | 0人 | 0人 | 3.6 |
| | 有効性 | 0人 | 2人 | 4人 | 0人 | 0人 | 3.4 |
| | 効率性・妥当性 | 0人 | 4人 | 2人 | 0人 | 0人 | 3.7 |
| | 総合評価 | 0人 | 5人 | 1人 | 0人 | 0人 | 3.8 |
| 助言・指摘事項等 | <p>1. キャベツの良食味安定生産のための施肥法の確立を目指す取り組みは必要である。品質向上、ブランド力向上が図られることを期待する。</p> <p>2. 施肥がキャベツの食味に及ぼす影響等、味覚センサーを用いた良食味条件の解明を期待する。</p> <p>3. キャベツの味の良さについて消費者に理解してもらうには、PRの仕方などの面で、相応の工夫が必要である</p> | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------|--|----|----|----|----|----|-----|
| 課題名 | 準高冷地ダイコンの多様なニーズに対応した品種選定と良品生産技術の確立 | | | | | | |
| 課題の概要 | 多様なニーズに対応するため、準高冷地に適するダイコン品種を選定するとともに、その良品生産技術を開発する。 | | | | | | |
| 評価結果 | 区分 | 5点 | 4点 | 3点 | 2点 | 1点 | 平均点 |
| | 必要性 | 1人 | 2人 | 2人 | 1人 | 0人 | 3.6 |
| | 有効性 | 0人 | 4人 | 1人 | 1人 | 0人 | 3.4 |
| | 効率性・妥当性 | 1人 | 2人 | 3人 | 0人 | 0人 | 3.6 |
| | 総合評価 | 1人 | 4人 | 0人 | 1人 | 0人 | 3.8 |
| 助言・指摘事項等 | <p>1. 岡山県北部の特産であるダイコンの新たな品種選定と生産技術の開発はその生産振興に有益である。</p> <p>2. 品種選定や栽培上の問題の解決策について、もう少し研究手法を整理して、達成目標を明確に示す必要がある。</p> <p>3. 少子化の中、大根の需要が業務用に絞られてきた。小売店での販売も切り売り主体である。ミニダイコンの試作は良いポイントだが、現在の小売店は店頭販売と惣菜へのシフトと併用で仕入れを構築している。小売店の要望も十分に調査し試験に取り組んで欲しい。</p> | | | | | | |

平成27年度岡山県農林水産総合センター農業研究所試験研究課題評価票

<中間評価>

総合評価凡例 5：優先的に継続することが適当 4：継続することが適当
 3：計画変更して継続することが適当 2：継続の必要性が低い
 1：中止すべきである

| | | | | | | | |
|----------|--|----|----|----|----|----|-----|
| 課題名 | モモのオリジナル新品種の高品質安定生産技術の確立 | | | | | | |
| 課題の概要 | 農家経営の安定と県産ブランド推進を図るため、早生から晩生までのオリジナル品種のシリーズ化を目指した高品質・安定生産技術を確立する。 | | | | | | |
| 評価結果 | 区分 | 5点 | 4点 | 3点 | 2点 | 1点 | 平均点 |
| | 目標達成可能性 | 0人 | 1人 | 5人 | 0人 | 0人 | 3.2 |
| | 〃（阻害要因） | 1人 | 2人 | 3人 | 0人 | 0人 | 3.7 |
| | 必要性 | 0人 | 6人 | 0人 | 0人 | 0人 | 4.0 |
| | 有効性 | 1人 | 5人 | 0人 | 0人 | 0人 | 4.2 |
| | 効率性・妥当性 | 1人 | 3人 | 2人 | 0人 | 0人 | 3.8 |
| | 総合評価 | 2人 | 4人 | 0人 | 0人 | 0人 | 4.3 |
| 助言・指摘事項等 | 1. 「岡山白桃」のシリーズ化のため、新品種の生育特性の解明と安定生産技術の開発を早急に進めることは岡山県の果樹振興にとって意義深い。 2. 中生・極晩生新品種の品種登録が生産現場で強く求められている。今後とも高品質安定生産技術の確立を目指して頂きたい。 3. 出荷時期の違う3品種が開発されると、岡山県のモモが長期間出荷可能という理想的な形に近づく。中国の中秋節に向けての輸出も可能になる。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|----------|---|----|----|----|----|----|-----|
| 課題名 | 気象変動に対応した春季のモモの樹勢衰弱・枯死回避技術の確立 | | | | | | |
| 課題の概要 | 近年の早春の気象変動によるモモの樹勢衰弱・枯死を回避するため、凍害回避資材及び耐凍性台木を利用した総合的な対策技術を確立する。 | | | | | | |
| 評価結果 | 区分 | 5点 | 4点 | 3点 | 2点 | 1点 | 平均点 |
| | 目標達成可能性 | 0人 | 2人 | 3人 | 1人 | 0人 | 3.2 |
| | 〃（阻害要因） | 1人 | 1人 | 4人 | 0人 | 0人 | 3.5 |
| | 必要性 | 0人 | 6人 | 0人 | 0人 | 0人 | 4.0 |
| | 有効性 | 1人 | 5人 | 0人 | 0人 | 0人 | 4.2 |
| | 効率性・妥当性 | 1人 | 2人 | 3人 | 0人 | 0人 | 3.7 |
| | 総合評価 | 1人 | 5人 | 0人 | 0人 | 0人 | 4.2 |
| 助言・指摘事項等 | 1. 大変優れた研究テーマであり、研究成果は着実に出されているものと評価する。モモ樹の損害は農家の収益を大きく左右する。良い結果がでることを期待する。 2. 成果をより確実なものにするため、季節変動に影響されないで耐凍性試験を実施できる手法の開発を望む。 3. 「ひだ国府紅しだれ」台木と岡山の主要モモ品種との接ぎ木親和性の解明が待たれる。 4. 凍害防止資材は、他の果樹や野菜でも活用できる可能性があるのではないかと。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|----------|---|----|----|----|----|----|-----|
| 課題名 | ブドウ安定生産のための施肥方法の改善 | | | | | | |
| 課題の概要 | 高品質な果実を安定生産するために、果樹園での窒素肥料の動態を明らかにし、効率的に肥料成分を吸収させるための分施方法を確立する。 | | | | | | |
| 評価結果 | 区分 | 5点 | 4点 | 3点 | 2点 | 1点 | 平均点 |
| | 目標達成可能性 | 0人 | 1人 | 5人 | 0人 | 0人 | 3.2 |
| | 〃（阻害要因） | 0人 | 1人 | 5人 | 0人 | 0人 | 3.2 |
| | 必要性 | 0人 | 2人 | 4人 | 0人 | 0人 | 3.3 |
| | 有効性 | 0人 | 3人 | 3人 | 0人 | 0人 | 3.5 |
| | 効率性・妥当性 | 0人 | 3人 | 3人 | 0人 | 0人 | 3.5 |
| | 総合評価 | 1人 | 4人 | 1人 | 0人 | 0人 | 4.0 |
| 助言・指摘事項等 | <p>1. 樹勢低下が見られる樹への施肥改善方法を提示できており、窒素肥効が安定する土壌水分条件や春肥の経年施用と樹勢との関係解明等の研究を継続する意義がある。</p> <p>2. ピオーネ栽培に取り組む新規就農者が増えていることもあり、安定生産につながる栽培手法の開発や普及は意義がある。</p> <p>3. 土壌の改良技術はまだ必要である。窒素肥料の動態を解明し、効率の良い施肥技術を確立して頂きたい。</p> <p>4. 樹勢低下の原因として、窒素施肥量の減少とともに結果過多の影響も検討する必要がある。</p> | | | | | | |

| | | | | | | | |
|----------|--|----|----|----|----|----|-----|
| 課題名 | 岡山県の気候に適したオリジナルリンドウの新品種育成による連続出荷体系の確立と栽培技術の改善 | | | | | | |
| 課題の概要 | リンドウの生産振興を図るため、開花期の異なるオリジナルリンドウ品種を育成し、連続出荷体系を確立する。 | | | | | | |
| 評価結果 | 区分 | 5点 | 4点 | 3点 | 2点 | 1点 | 平均点 |
| | 目標達成可能性 | 0人 | 3人 | 2人 | 1人 | 0人 | 3.3 |
| | 〃（阻害要因） | 0人 | 2人 | 4人 | 0人 | 0人 | 3.3 |
| | 必要性 | 1人 | 4人 | 1人 | 0人 | 0人 | 4.0 |
| | 有効性 | 0人 | 4人 | 2人 | 0人 | 0人 | 3.7 |
| | 効率性・妥当性 | 0人 | 2人 | 4人 | 0人 | 0人 | 3.3 |
| | 総合評価 | 0人 | 5人 | 1人 | 0人 | 0人 | 3.8 |
| 助言・指摘事項等 | <p>1. 新品種の育成に関してはそれなりの成果が得られており、28年度以降も研究を継続する必要がある。</p> <p>2. 他県でもリンドウ新品種育成に力をいれており、端境期を狙った新品種の開発は競争が激化している。新たな色の品種、端境期出荷を狙える品種、栽培しやすい品種等々、県でしかできない取り組みを期待する。</p> <p>3. 地域資源であるスギやヒノキ樹皮を培地として用いたコンテナ栽培技術の開発も確実に進捗しているものと評価する。コンテナ栽培の更なる改良を進めてもらいたい。</p> | | | | | | |

平成27年度岡山県農林水産総合センター農業研究所試験研究課題評価票

<事後評価>

総合評価凡例 5：著しい成果が得られた 4：十分な成果が得られた
 3：一定の成果が得られた 2：見込んだ成果を下回った
 1：成果が得られなかった

| | | | | | | | |
|----------|--|----|----|----|----|----|-----|
| 課題名 | ブランド化を目指した「シャインマスカット」の高品質生産技術の確立 | | | | | | |
| 課題の概要 | 産地間競争に打ち勝つため、他県をリードする高品質な「シャインマスカット」の生産技術を確立し、栽培マニュアルを作成する。 | | | | | | |
| 評価結果 | 区分 | 5点 | 4点 | 3点 | 2点 | 1点 | 平均点 |
| | 目標達成度 | 0人 | 3人 | 3人 | 0人 | 0人 | 3.5 |
| | 有効性(効果) | 0人 | 3人 | 3人 | 0人 | 0人 | 3.5 |
| | 有効性(目的以外の成果) | 1人 | 3人 | 2人 | 0人 | 0人 | 3.8 |
| | 効率性・妥当性(費用対効果) | 1人 | 4人 | 1人 | 0人 | 0人 | 4.0 |
| | 効率性・妥当性(計画) | 0人 | 4人 | 2人 | 0人 | 0人 | 3.7 |
| | 成果の活用・発展性 | 3人 | 2人 | 1人 | 0人 | 0人 | 4.3 |
| | 総合評価 | 2人 | 3人 | 1人 | 0人 | 0人 | 4.2 |
| 助言・指摘事項等 | <p>1. 得られた研究成果をマニュアル化しており、それがしっかりと普及し、出荷量の伸び等にも結びついているものと高く評価する。</p> <p>2. 高品質果生産のための樹相の指標化に関してはそれなりの成果が得られているが、果実障害の回避技術の確立に関しては更に検討する必要がある。</p> <p>3. 優れた技術を開発しており、研究所と生産現場をつなぐ普及指導員らの指導力が重要である。</p> <p>4. 中元需要期における加温栽培で糖度不足の対策を早期に確立しなければならないので、引き続き試験研究をお願いしたい。</p> | | | | | | |

| | | | | | | | |
|----------|---|----|----|----|----|----|-----|
| 課題名 | 「紫苑」の出荷期間拡大技術の確立 | | | | | | |
| 課題の概要 | 有利販売が可能な歳暮需要に対応するため、果実を樹上で年末まで保持できる技術を確立する。 | | | | | | |
| 評価結果 | 区分 | 5点 | 4点 | 3点 | 2点 | 1点 | 平均点 |
| | 目標達成度 | 0人 | 2人 | 4人 | 0人 | 0人 | 3.3 |
| | 有効性(効果) | 1人 | 1人 | 4人 | 0人 | 0人 | 3.5 |
| | 有効性(目的以外の成果) | 0人 | 3人 | 3人 | 0人 | 0人 | 3.5 |
| | 効率性・妥当性(費用対効果) | 1人 | 3人 | 2人 | 0人 | 0人 | 3.8 |
| | 効率性・妥当性(計画) | 1人 | 2人 | 3人 | 0人 | 0人 | 3.7 |
| | 成果の活用・発展性 | 2人 | 3人 | 1人 | 0人 | 0人 | 4.2 |
| | 総合評価 | 2人 | 3人 | 1人 | 0人 | 0人 | 4.2 |
| 助言・指摘事項等 | <p>1. 出荷抑制及び棚持ち向上技術並びに経済性評価とどれも明確な結果が出ており、次世代フルーツ「紫苑」の出荷期間の拡大につながる成果として高く評価する。</p> <p>2. これまでに得られた成果をもとに早急にマニュアルを作成する必要がある。</p> <p>3. 紫苑の着色基準も確立して頂きたい。</p> | | | | | | |